

# 会派くらしよしアイズ・倉吉自民共同「行政視察報告書」

(視察・調査の経過及び感想)

日時 平成27/11/11(水)～13(金)  
議員 段塚 廣文、福谷 直美、丸田 克孝、  
米田 勝彦、藤井 隆弘

## 1. 視察・調査の経過及び感想について

### (1) 千代田区 11/11(水) 11:00～15:30 「六本木・国立新美術館(改組新第2回日展)」について

羽田空港到着。千代田区永田町に行くまでの時間を活用して、同じ千代田区六本木の国立新美術館を視察する。10月30日(金)から12月6日(日)までは、改組新第2回「日展」が開催されていた。都心にある美術館の建物のすばらしさもさることながら、展示の迫りに圧倒された。

日展は、明治40年に第1回文部省美術展覧会(文展)から「帝展」「新文展」「日展」と名称を変えつつ、日本の美術界をリードし続け100年の長きに渡る歴史を刻んできた。最初は日本画と西洋画、彫刻の3部制で始まりだったが、現在では、「日本画」「洋画」「彫刻」「工芸美術」「書」の5部からなる。

東京会場展は、当初上野の東京都美術館での開催であったが、2007年からは、六本木に開館した「国立新美術館」に会場を移している。東京会場展終了後は、全国主要都市で巡回展が開かれ、50万人を超す多くの入場者がある。本年の作品点数は、日本画452点、洋画1967点、彫刻147点、工芸美術724点、書8717点、合計12007点におよぶ。鑑賞後、美術館内にあるレストランで余韻にひたりながら昼食をとる。

### 「要望活動」について

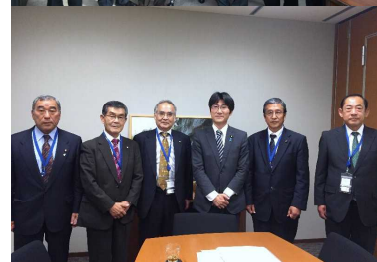
永田町に移動。鳥取県選出の赤沢亮正衆議院議員、石破茂地方創生・国家戦略特別区域担当大臣、舞立昇治参議院議員に面会、要望活動を行った。今回の要望内容は次の点であった。

倉吉市の取組に対する支援へのお礼と取組充実のためのさらなる支援のお願いである。特に、地方創生「地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金」に関して、「国産フィギュア生産拠点」「ギンザケのふるさと拡大支援」等に格段の配慮をいただいた。

石破茂氏からは、「地方創生の観点から国は各自治体に具体的なデータを提供している。例えば、出生率や初婚年齢等自治体によって大きく異なる。その原因と対応について、行政と市民(議会)が課題を共有して取組を行うことで成果も異なる」といった示唆をいただいた。

赤沢亮正・舞立昇治両議員からは、現在の国の課題・情勢、特に、TPP(環太平洋地域による経済連携協定)に関連した事柄の国民への説明と理解を求めるために日々精力的に活動されていることを伺った。

ご多忙の中、我々の要望活動等に対して時間を取って対応していただいた石破茂大臣、赤沢亮正衆議院議員、舞立昇治参議院議員、また、会場への案内・接遇等でお世話いただいた各事務所の皆様に感謝いたします。



## (2) 滋賀県草津市 11/12(木) 12:00~14:30

### 「草津まちづくり株式会社」について

新幹線、東海道線を乗り継いで草津市へ。草津市は、人口約13万人でやや増加傾向にある。しかし、草津駅周辺の中心市街地は高層マンション等の建設で人口は増えているものの、古くからの商店街は衰退傾向にある。

JR草津駅近くのniwa+（ニワタス）で草津まちづくり株式会社の伊勢村社長と尾中氏の出迎えを受ける。アニマート跡地にぎわい空間整備事業（中心市街地活性化事業）の一つである「叶匠壽庵」で近江牛を使ったひつまぶし膳を食べる。元お菓子屋さんの建物を利用しているとのことで、食や雰囲気を楽しむながら美味しくいただく。

食後、町並みを散策しながら「草津まちづくり株式会社」へ歩いて移動。途中、中心市街地活性化事業の一環である「草津川跡地にぎわい空間整備事業」（右がイメージ看板）を視察する。草津川は天井川であり、市の中心部近くに流れている。災害、交通面などの対応のため川の流れを変え、元の草津川及び河川敷を自然豊で、市民が集える場所として整備しようとするものである。「人と自然 人と人がつながる ガーデンミュージアムをめざして」というコンセプトで市と市民が協議しながら事業の伸展を図ったということであった。

草津まちづくり株式会社へ到着。草津まちづくり株式会社西澤奈都美氏と草津市役所都市計画部まちなか再生課長 中村秀史氏ともお会いする。

伊勢村社長と尾中氏より草津市の中心市街地活性化事業及び草津まちづくり株式会社を中心に説明を受ける。それによると、草津市の中心市街地活性化計画は、平成25年11月から31年3月までの期間で、3つのエリア（本陣周辺、駅東、駅西）と2つの軸（草津川跡地軸、歴史街道軸）を活かし、「歩いて楽しい回遊性の高いまち」「個性的で魅力のある店舗が集積するまち」「幅広い世代が交流するまち」をテーマとしている。

草津まちづくり株式会社は、平成25年2月「JR草津駅周辺に於いて草津市が進める中心市街地活性化法に基づく都市再生を官民協働により実施するためまちなかの魅力と価値を高める組織」として設立された。株主は、草津市、草津商工会議所、金融機関、大型店舗、市民、地元企業、商店街関係、各種団体などである。まちづくり会社は、中心市街地活性化事業のタウンマネジメント機能・実施機関機能の両面を有し、中心市街地活性化協議会の事務局となっている。職員は4名体制で、人件費及び家賃は市の補助金（5年間は全額、その後5年間は2分の1、後はなしの予定）でまかなっている。説明や質疑を通して、伊勢村社長のリーダーシップや職員のやる気・行動力がこの会社の大きな力となっていることを感じた。

質疑終了後、まちづくり会社の関わっているレストランやショップ、史跡草津宿本陣を見学した。草津宿は東海道の宿場として本陣2軒、脇本陣2軒、旅籠70軒余を構え、多くの人が行き交う宿泊施設が集まっていた宿場町である。視察した本陣は、国の史跡に指定され当時の様子を伺うことのできるもので、江戸の世界へと思いをはせた。草津の町並みを散策しながら、JR東海道線で次の視察地京都市へと向かった。



### (3) 京都市 11/13(金) 10:00~11:30 「京都市美術館」について

京都市美術館は、昭和8年11月、東京都美術館に次ぐ日本で二番目の大規模公立美術館として設立された。戦後一時駐留軍に接収されたこともあったが、再開後は戦前からの各種展覧会に加え、国際文化交流という時代の要請を受けて大規模な外国展覧会が頻繁に開催されるようになり、近・現代美術の鑑賞と発表のための、西日本最大の舞台のひとつとして戦後日本文化の中で大きな役割を果たしてきた。床面積は、9,349m<sup>2</sup>（本館）と1,967m<sup>2</sup>（別館）を有する。

京都市美術館は、年間を通して「日展」「自由美術展」「二紀展」「二科展」等の企画展示の他、文化活動・イベントとして、市民に美術館に親んでもらうため、次のようなアートフレンド事業を実施している。

(1) 市民美術講座：美術に対する教養を深めるため、展覧会に対する新たな視点を見つけるための美術講座、ギャラリー・トークの実施。美術講座：展覧会をより楽しく、興味深く観てもらうために関連分野の多彩な講師による講演会の実施。ギャラリー・トーク：担当の学芸員が作品をより身近に感じてもらえるように会場内で作品解説を実施。

(2) ワークショップ（体験型講座）：作品が生まれる過程に立ち会ったり、自ら制作を体験したりする中で、美術に対する新しい見方、感じ方を発見する機会の提供。

美術館内での作品鑑賞、また、日本国内はもちろん世界各国から日本を代表する京都の町並みにしっかりと馴染んだ建物。また、京都市民の文化芸術・イベントの基地ともなっている京都市美術館は「水と緑と文化のまち」倉吉としても規模や立地を別としても参考にすべき点が多いと感じた。

また、今回の六本木・国立新美術館及び京都市美術館の視察を通して、県立美術館の誘致に向けたより具体的な活動の必要性を感じた。

## 2. 視察・調査を終えて

「視察・調査の経過及び感想について」に載せたことはもちろん、他にも沢山のことを学ばせて頂きました。われわれの要望活動に対し時間を割き対応していただいた石破茂、赤沢亮正、舞立昇治の国会議員及び関係者の皆様、到着から出発まで「おもてなし」の心で細やかな心配りをして頂いた草津まちづくり株式会社及び草津市の関係者の皆様本当にありがとうございました。

視察を通して本市に還元できることを取り入れ、市民の皆さんにお役に立てるよう精進いたします。ありがとうございました。

